

二〇二六年度

トキワ松学園高等学校入学試験

国語第一回

問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

次の①～⑤の――線のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の――線の漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

- ① コウミヨウなプレー。
- ② 広告をケイサイする。
- ③ ビルがホウカイする。
- ④ トクメイで投書する。
- ⑤ キヨリ感を誤る。
- ⑥ 杉の木を伐採する。
- ⑦ 万全の措置をとる。
- ⑧ 援助を哀願する。
- ⑨ 親の承諾を得る。
- ⑩ 打球が弧を描く。

あとの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～③の□にあてはまるものをあとの□から選び、漢字に直して対義語・類義語を作りなさい。(□内の

ひらがなは一度だけ使うこと。)

① 単純 — □ 雑 (対義語)

② 返事 — □ 答 (類義語)

③ 未熟 — □ 稚 (類義語)

おう こん たい ふく よう

- (2) 次の①、②の四字熟語の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

① 小学校からの大親友は、イシン伝心で互いの考えが理解できる。

② 彼女は常に大胆フテキな戦略を立て、チームを勝利へと導いている。

三

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(問いの下の数字は、本文での行数を示します。)

1 昨今、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化して
 2 いる」「価値観が違う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉が^a流布^aしています。^①このような、「人や文化によつ
 3 て価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣がつけられない」という考え方を相対主義といいます。「正しさは人それ
 4 ぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない」とか、「何が正しいかなんて誰にも決められない」といったことさえ
 5 主張する人もけっこういます。

6 こうしたことを主張する人たちは、おそらく多様な他者や他文化を尊重しようと思っているのでしょう。そういう善意^②
 7 はよいものではありますが、はたして「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」という主張は、本当に多
 8 様な他者を尊重することにつながるのでしょうか。そもそも、「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか。それに、
 9 人間は本当にそれほど違っているのかも疑問です。

10 たしかに、価値観の異なる人と接触することがなかったり、異なっている^b両立^bできるような価値観の場合には、「正
 11 しさは人それぞれ」と言っているても大きな問題は生じません。たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価
 12 値観によって生活しているも、自分には関係がありません。また A、野球が好きな人とサッカーが好きな人は、ス
 13 ポーツのネタでは話が合わない^③かもしれませんが、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしょう。サッカー
 14 が好きなのは間違っていて、すべての人は野球が好きでなければならない、なんていうことはありません。

こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがってみんないい」でよいでしょう。しかし、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならない場合があります。たとえば、「日本の経済発展のためには原子力発電所が必要だ」という意見と、「事故が起こった場合の被害が大きすぎるので、原子力発電所は廃止すべきだ」という意見とは、両立しません。どちらの意見にももつともな点があるかもしれませんが、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばなければなりません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てなければなりません。逆もまたしかり。^④「みんなちがってみんないい」というわけにはいかないのです。

そんなときには、どうすればよいでしょうか。「価値観が違う人とはわかりあえない」のであれば、どうすればよいのでしょうか。

そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます。本来、政治とは、意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけたためのはたらきなのですが、最近では、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えています。批判に対してきちんと正面から答えず、単に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

そうした態度を批判するつもりで「正しさは人それぞれだ」とか「みんなちがってみんないい」などと主張したら、権力者は大喜びでしょう。

B

、もしもさまざまな意見が「みんなちがってみんないい」のであれば、つまりさまざま

な意見の正しさに差がないとするなら、選択は力任せに行うしかないからです。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しさにもとづいてではなく、人それぞれの主観的な信念にもとづいて行うしかない。それに納得できない人とは話し合っても無駄だから権力で強制するしか

い。こういうことになってしまいます。

つまり、「正しさは人それぞれ」や「みんなが違ってみんないい」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てて正当化することにつながってしまうのです。これでは結局、「力こそが正義」という、困った世の中になってしまいます。それは、権力など持たない大多数の人々（おそらく、この本を読んでくれているみなさんの大部分）の意見が無視される社会です。

では、どうしたらよいのでしょうか。

よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考えています。このように、さまざまな問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、普遍主義といます。探偵マンガの主人公風に言えば、「真実是一つ!」という考え方だといってもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意味の言葉です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学については普遍主義的な考えを持っている人が多いでしょう。「科学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことはありません。

そして実際、日本を含めてほとんどの国の政府は、政策を決めるにあたって科学者の意見を聞くための機関や制度を持っています。日本であれば、各省庁の審議会（専門家の委員会）や日本学術会議などです。「日本の経済発展のために原子力発電所は必要なのか」「どれぐらいの確率で事故が起こるのか、事故が起こったらどれぐらいの被害が出るのか」といった問題について、科学者たちは「客観的で正しい答え」を教えてくれそうに思えます。

C

、実は科学は一枚岩ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取っている人がいます。そうした多数の科学者が論争する中で、「より正しそうな答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であればほ

ば全員が賛成している答え」ができあがるには時間がかかります。みなさんが中学や高校で習う^{注1}ニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も昔の一七世紀末に提唱されたものです。^{注2}アインシュタインの^{注3}相対性理論や^{注4}量子力学は「現代物理学」と言われますが、提唱されたのは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探求されていますが、それについては合意がなされていません。合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。

最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために、実験をしたり計算をしたりしています。D、科学者に「客観的で正しい答え」を聞いても、何十年も前に合意が形成されて研究が終了したことについては教えてくれますが、まさしく今現在問題になっていることについては、「自分が正しいと考える答え」しか教えてくれないのです。ある意味では、「科学は人それぞれ」⁶なのです。

そこで、たくさん科学者の中から、⁷自分の意見と一致する立場をとっている科学者だけを集めることが可能になります。^{注5}東日本大震災で福島第一原発が爆発事故を起こす前までは、日本政府は「原子力推進派」の学者の意見ばかりを聞いていました（最近また、そういう時代に逆戻りしつつあるような気がします）。アメリカでも、トランプ大統領は地球温暖化に懐疑的な学者ばかりを集めて「地球温暖化はウソだ」と主張し、経済活動を優先するために二酸化炭素の排出の規制を緩和しました。

権力を持つ人たちは、⁸もっと直接的に科学者をコントロールすることもできます。現代社会において科学研究の主要な財源は国家予算です。そこで、政府の立場と一致する主張をしている科学者には研究予算を支給し、そうでない科学者には支給しないようにすれば、政府の立場を補強するような研究ばかりが行われることになりかねません。

このように考えてくると、科学者であっても、現時点で問題になっているような事柄について、「客観的で正しい答え」を教えてくださいるものではないそうです。ではどうしたらよいのでしょうか。自分の頭で考える？ どうやって？

この本では、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものなのかを考えます。そうした考察を踏まえて、多様な他者と理解し合うためにはどうすればよいのかについて考えます。ここであらかじめ結論だけ述べておけば、私は、「正しさは人それぞれ」でも「真実は一つ」でもなく、人間の生物学的特性を前提としながら、人間と世界の関係や人間同士の間の関係の中で、いわば共同作業によって「正しさ」というものが作られていくのだと考えています。それゆえ、多様な他者と理解し合うということは、かれらとともに「正しさ」を作っていくということです。

これは、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんない」といったお決まりの簡便な一言を吐けば済んでしまふような安易な道ではありません。これらの言葉は、言ってみれば相手と関わらないで済ますための最後通牒（さいごつうめい）です。みなさんが意見を異にする人と話し合った結果、「結局、わかりあえないな」と思ったときに、このように言うでしょう。「まあ、人それぞれだからね」。対話はここで終了です。

ともに「正しさ」を作っていくということは、そこで終了せずに踏みとどまり、とことん相手と付き合うという面倒な作業です。相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えなければならないこともあるでしょう。それでプライドが傷つくかもしれません。しかし、傷つくことを嫌がっている、新たな「正しさ」を知って成長していくことはできません。

最近、「正しさは人それぞれ」と並んで、「どんなことでも感じ方しだい」とか「心（こころ）を傷つけてはいけない」といった感情尊重の風潮も広がっています。しかし、学び成長するとは、今の自分を否定して、今の自分でないものになるということとです。これはたいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業です。あえていえば、成長するためには傷ついてナンボです。

若いみなさんには、傷つくことを恐れずに成長の道を進んでほしいと思います（などと言うのは説教くさくて気が引けますが）。

（山口 裕之^{ひろゆき}『みんな違ってみんないい』のか？ 相対主義と普遍主義の問題）

注1 ニュートン物理学（49） … アイザック・ニュートンによって確立された古典力学とも呼ばれる物理学のこと。

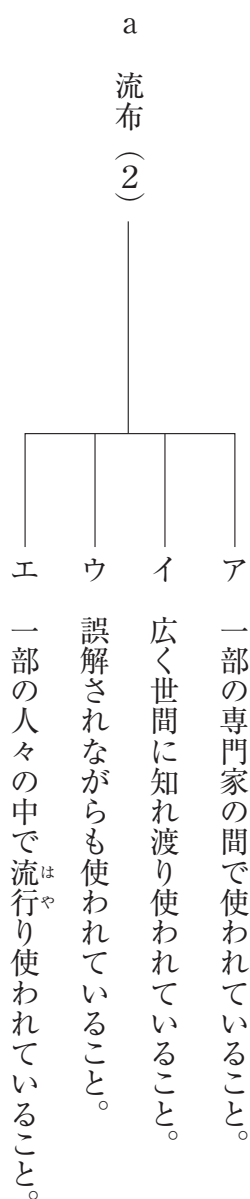
注2 アインシュタイン（50） … 理論物理学者。一九二一年ノーベル物理学賞を受賞。平和主義者としても知られる。

注3 相対性理論（50） … … … アインシュタインによって確立された物理学の基礎理論。

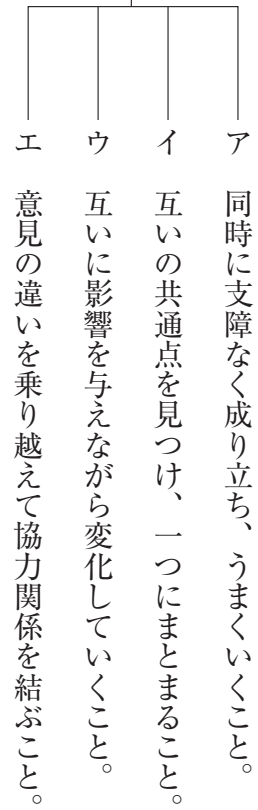
注4 量子力学（50） … … … 素粒子・原子・原子核・分子などミクロな粒子に関する、古典力学とは異なる力学体系。

注5 東日本大震災（59） … … … 二〇一一年三月十一日午後二時四十六分に三陸沖で発生した東北地方太平洋沖地震によってもたらされた大災害。

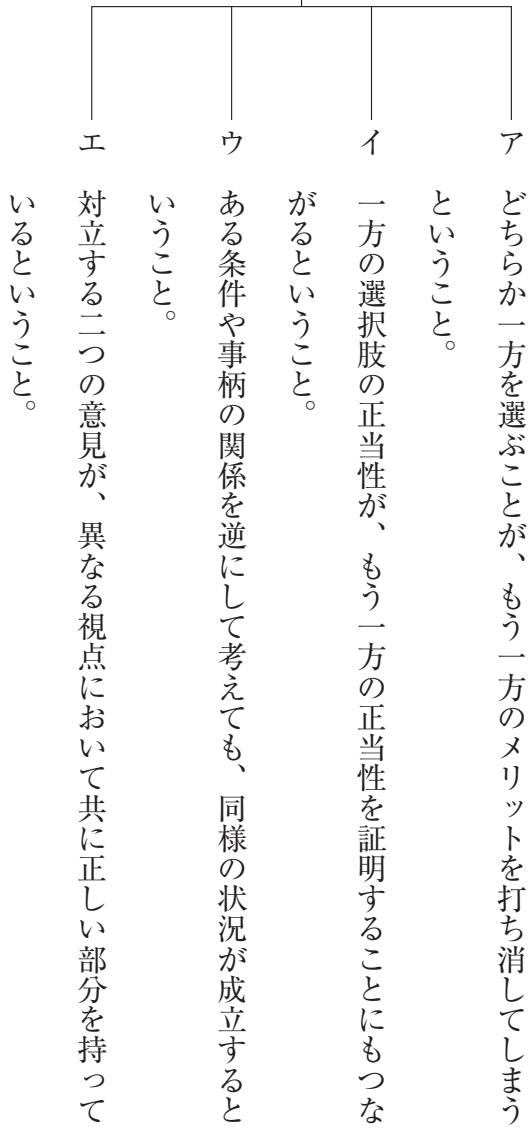
問一 … … … 線 a ～ e の言葉の本文中での意味として、最も適当なものを、それぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。（2、10、20、47、74）



b
両立(10)



c
逆もまたしかり(20)



d 一枚岩ではない (47)

- ア 意見が多岐にわたり、統一されていないこと。
- イ 研究の基盤が弱く、くずれやすいこと。
- ウ 権力によって容易に操られていること。
- エ 表面的な見解だけで、深みがないこと。

e 最後通牒^{つうちよう} (74)

- ア 相手を諭し、考えを改めさせるための丁寧な提案。
- イ 話し合いを続けようと、最後まで相手に呼びかけるための言葉。
- ウ 受け入れられない場合、次の段階へ移行することを伝える最終的な要求。
- エ 自分の意見を一方的に押し付け、相手の意見は一切受け入れないという姿勢。

問二 空欄

A

く

D

に入る最も適当な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(12、28、47、55)

ア ところが イ たとえば ウ つまり エ なぜなら オ もちろん

問三——線①「このような、『人や文化によって価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣がつけられない』という考え方」とありますが、どのような考え方ですか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(2・3)

ア 多様な文化や価値観をもつ個人が、互いの違いを認め、協力し、共通の「正しさ」を作り上げるべきだという考え方。
イ 正しさは人や文化によって異なり、それぞれの価値観の間には客観的な優劣をつけられないという、価値観に関する考え方。

ウ 意見や価値観が対立した場合、力を持つ者の判断を一時的に受け入れ、社会の混乱を避けるべきだという考え方。
エ 特定の状況下で問題が生じない限り、「みんなちがってみんない」として、価値観の議論を避けるべきだという考え方。

問四——線②「善意」の対義語を漢字で答えなさい。(6)

問五——線③「ない」と同じ働きのものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(13)

ア 雨が一日中降らないので、洗濯物がよく乾いた。

イ 危ない橋を渡るのはやめたほうがいい。

ウ この部屋には時計がない。

エ 思いやりのない人とは一緒にいたくない。

問六 (1) ——— 線④ 「『みんなちがってみんないい』というわけにはいかない」とありますが、なぜですか。本文中の

言葉を用いながら、三十五字以内で説明しなさい。(20)

(2) ——— 線④ 「『みんなちがってみんないい』というわけにはいかない」場合、本来はどのようなことが必要な

のですか。漢字二字で本文中から抜き出して答えなさい。(20)

問七 ——— 線⑤ 「権力者は大喜びでしょう」とありますが、なぜですか。本文中の言葉を用いながら、説明しなさい。

(27・28)

問八 ——— 線⑥ 「科学は人それぞれ」とありますが、筆者が指摘する理由として、最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。(57)

ちから一つ選び、記号で答えなさい。(57)

ア 科学の真理は普遍的で絶対的なものであり、人々の価値観に関係なく、最終的には常に一つの正しい答えに到達するはずだから。

イ 科学は、ニュートン物理学や相対性理論のように、合意が形成されるまでに非常に長い時間が必要であり、現代の問題解決には役立たないから。

ウ 最先端の研究分野では、科学者たちがそれぞれ自分の正しいと考える仮説を正当化しており、「客観的で正しい答え」について合意が形成されていないから。

エ 科学は客観的な事実のみを扱うため、倫理や価値観が絡むような問題については、そもそも判断を下すことができません。きず限界があるから。

問九 ——— 線⑦ 「自分の意見と一致する立場をとっている科学者だけを集めることが可能になります」とありますが、「自分の意見と一致する立場をとっている科学者だけを集めること」がもたらす問題は何ですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。(58・59)

問十 ——— 線⑧ 「直接的に科学者をコントロールする」とありますが、政府はどのように科学者をコントロールするのですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。(63)

問十一——線⑨「心を傷つけてはいけない」という感情尊重の風潮に対して、筆者は成長するためには傷つく必要が

あると述べています。その理由として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(80)

ア 傷つくことで競争心が芽生え、他者よりも優位に立とうとするモチベーションが生まれるため、結果的に社会の発展につながるから。

イ 成長とは、今の自分を否定して、今の自分でないものになるという苦しい作業であり、その変革のプロセスが心の傷を伴うから。

ウ 傷つく経験は記憶に残りやすいため、議論で負けた悔しさから、二度と同じ過ちを繰り返さないようにより深く学習しようと努力するようになるから。

エ 社会のルールや他者の価値観を理解するためには、必ず他者からの厳しい批判を受け入れなければならず、その過程で心が傷つくことが避けられないから。

問十二 (1) 「相対主義」と「普遍主義」について書かれた次の文の空欄に当てはまる言葉を、本文中から①六字と②九

字で抜き出して答えなさい。

相対主義による決定は、正しさにもとづいてではなく、人それぞれの①だが、普遍主義による決定は、多様な問題について「②」である。

(2) 「相対主義」によるものと「普遍主義」によるものとして当てはまるものを次のア～エから全て選び、記号で答えなさい。

ア 宗教によってどのような服装がよいのかは異なる。

イ 人間の喜びや悲しみなどの感情は共通している。

ウ 世界のどの民族や社会であつても善悪の区別がある。

エ 怒りや悲しみの表現は文化によって違いがある。

問十三 本文中の筆者の考えとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「正しさは人それぞれ」という相対主義は、結局は力による決定を招くため、多様な他者と粘り強く対話することとで新しい「正しさ」を共に作るべきである。

イ 客観的に正しい答えを示す科学こそが、さまざまな価値観が対立する現代社会において、最終的な判断基準となるはずである。

ウ 対立する意見を無理にまとめようとするのではなく、「わかりあえない」現実を認め、互いに干渉しないことが真の多様性の尊重につながる。

エ 客観的な事実は科学で確かめるが、それをふまえた最終的な正しい判断は、多くの「わかりあえない」意見をそのまま認め、互いを尊重して決めるとよい。

